

令和元年度 行政評価外部評価対象事業選定理由及び各事業における懸案事項について

部会	事業名	担当課	選定理由	懸案事項
第1部会	介護予防啓発事業 (リフレッシュウォーキング事業) (生きがい温水プール浴事業) (介護予防ギフトボックス事業)	長寿支援課	補助金交付で実施している介護予防ギフトボックス事業の参加教室には、リフレッシュウォーキング事業や生きがい温水プール浴事業と類似した教室もあることから、より効率的に事業を実施する方法について検討する必要があると考えるため。	身近な場所で様々な介護予防教室に通える状況を整備するため、介護予防ギフトボックス事業の参加教室の充実を図る必要があるが、類似事業の整理、統合についても検討していかなくてはならないこと。
	子どもの生活・学習支援事業	子ども育成課	国で推奨している当事業において、本市でも生活困窮者の世帯の子どもに対し、学習及び食事等の支援を提供する場所も増加している中、当事業の現時点における状況を確認するとともに、更に推進していくための方策はないかの検討をする必要があると考えるため。	事業の周知は、対象者全世帯に行っているところではあるが、学習意欲の低下などもあり、参加率・定着率が芳しくないことから、事業に対する理解を深めてもらうため、更に工夫していかなくてはならないこと。
	特別支援教育支援事業 (障害児送迎事業)	指導課	障害児送迎事業は、近隣市では実施していないことに加え、一人当たりの財政負担額が膨らんでいることが懸念材料となっていることから、経費の抑制を図るため、効率的に事業を実施する方策はないかの検討が必要と考えるため。	今後、事業の必要性が益々高くなると推測されるが、予算縮減は目指さなくてはならない。一方で、特別支援学級に通学する児童に対して、登下校の不安を取り除き、適切な支援をするため代替案を見出すことが懸案である。
第2部会	母子・父子福祉センター補助事業	子育て相談課	施設の老朽化や事業を実施する上での効果等を考慮すると、抜本的な見直しも含めた今後の事業の方向性を検討する必要があると考えるため。	当該施設が、国及び市の指定文化財になっていることから、施設の利用者以上に施設見学者の対応件数が年々増加している。今後は、事業の実施場所や実績を考慮しながら、事業の方向性について検討する必要がある。
	在宅歯科診療事業	保健総務課	近年、日曜日に開業している歯科診療所が増加傾向にあり、今後も当事業を現行の体制のまま、継続していくか等、市民のニーズに対応した事業の実施方法についての検討が必要であると考えたため。	日曜に診療を行っている歯科診療所も増えており、少ない患者数で推移している。祝日は診療をしている歯科診療所は少なく、救急歯科医療体制を確保する意味からその必要性はあると考える。今後も、市民ニーズに対応した適正な救急医療体制の整備を図れるように川口歯科医師会と協議を継続していく必要がある。
	市民大学事業	生涯学習課	当事業が実施されてから10年以上経過し、他課の事業との統合の可能性等、今後どのように事業を推進、展開していくかの検討を行う必要があると考えるため。	講座の開催日時や内容を工夫し、参加率が低い若い世代の方も参加しやすくなるような事業運営を行うとともに、マンネリ化を防ぐために積極的に事業の開拓を行い、新規の講座を実施していく必要があること。